2020/1/9

【世界】世界の原子力発電所における原子燃料リサイクル---MOX 燃料利用

現在世界中で、資源を有効活用することで廃棄物(ごみ)の量を最小限に抑える 3R(リデュース・リユース・リサイクル)の実践を通じた「循環型経済」への転換の取り組みが進められている。

原子力発電の分野では、すでに長きにわたりこうした取り組みが行われてきた。代表的な例が、原子力発電所で発生した使用済燃料を再処理して回収したプルトニウムとウランを混ぜてつくった混合酸化物(MOX)燃料としての再利用であり、これを我が国では、「プルサーマル」と呼んでいる。

我が国は英仏に委託して再処理を行ってきたが、エネルギー安全保障の強化の観点などから、国内再処理と MOX 燃料製造を目指しており、日本原燃株式会社(JNFL)が青森県六ヶ所村で再処理施設(2021 年度上期竣工予定)、MOX 燃料加工施設(2022 年度上期竣工予定)の建設を行っている。

実は MOX 燃料は 1960 年代から利用されており、2019 年 1 月 1 日時点で、世界中の原子力発電所(軽水炉)における MOX 燃料の利用実績は、累計 7,000 体以上にのぼる(図 1)。多くの国と国境を接する中で、限られた自国領土で放射性廃棄物を処分していくことになる欧州大陸の原子力国では、数十年前から、再処理を通じた原子燃料リサイクルによる資源の有効利用と廃棄物発生量の抑制というオプションを検討、採用してきた。例えばフランスは 3,500 体以上の利用実績を持ち、世界で最も MOX 燃料を利用している。これに続くドイツでも約 2,500 体の利用実績がある。両国に加え、スイス、オランダでも 2019 年現在、定常的に MOX 燃料の利用が行われている。オランダでは同国で唯一運転中のボルセラ原子力発電所で、2014 年から新たに MOX 利用が開始された。

このレポートは、電気事業連合会の委託により、株式会社三菱総合研究所が作成したものです。レポートの複写、配布等の許諾につきましては電気事業連合会にお問合せください。

2020/1/9

	F-1 W-7	le wil	グロス出力	***************************************	累積装荷体数		Falmer.	e-wi	グロス出力)19年1月1日現在 累積装荷体数
国名	原子力発電所	炉型	(MW)	装荷開始	(2018年末時点)	国名	原子力発電所	炉型	(MW)	装荷開始	(2018年末時点)
ベルギー	チアンジュ2号機	PWR	1,055	1995 to 2003*1	0	インド	カクラバー1号機	PHWR	202	2003	0
	ドール3号機	PWR	1,056	1995	96		タラプール1号機	BWR	160	1994	
フランス	フェニックス	FBR	140	1973			タラブール2号機	BWR	160	1995	
	サンローラン・デゾーB1号機	PWR	956	1987)		PFBR	FBR			
	サンローラン・デゾーB2号機	PWR	956	1988		オランダ	ボルセラ	PWR	512	2014	48
	グラブリーヌ3号機	PWR	951	1989		ロシア	ベロヤルスク3号機(BN-600) FBR	600	2003	
	グラブリーヌ4号機	PWR	951	1989		スイス	ベツナウ1号機	PWR	380	1978	124) 233
	ダンピエール1号機	PWR	937	1990			ベツナウ2号機	PWR	380	1984	108
	ダンビエール2号機	PWR	937	1993			ゲスゲン	PWR	1,060	1997 to 2012	48
	ルブレイエ2号機	PWR	951	1994			ライブシュタット	BWR	1,200	装荷認可	
	トリカスタン2号機	PWR	955	1996			ミューレベルク	BWR	372	装荷認可	
	トリカスタン3号機	PWR	955	1996		スウェーデン	オスカーシャム1号機	BWR	465	装荷認可	
	トリカスタン1号機	PWR	955	1997			オスカーシャム2号機	BWR	630	装荷認可	
	トリカスタン4号機	PWR	955	1997	3,500		オスカーシャム3号機	BWR	1.205	装荷認可	
	グラブリーヌ1号機	PWR	951	1997		米国	カトーバ1号機	PWR	1.205	2005*5	4
	ルブレイエ1号機	PWR	951	1997			ロバート・E・ギネイ	PWR	602	1980°6 to 1985	4
	ダンビエール3号機	PWR	937	1998		日本	ふげん*7	ATR	165	1981	772
	グラブリーヌ2号機	PWR	951	1998			もんじゅ	FBR	280	1993	
	ダンピエール4号機	PWR	937	1998			玄海3号機	PWR	1.180	2009	32
	シノンB4号機	PWR	954	1998			伊方3号機	PWR	890	2010	16
	シノンB2号機	PWR	954	1999			高浜3号機	PWR	870	2010	24
	シノンB3号機	PWR	954	1999			高浜4号機	PWR	870	2016**	4
	シノンB1号機	PWR	954	2000			福島第一3号機*8	BWR	784	2010	32
	グラブリーヌ6号機	PWR	951	2008			柏崎刈羽3号機	BWR	1,100	装荷認可**11	OL.
	グラブリーヌ5号機	PWR	951	(2010)			浜岡4号機	BWR	1,137	装荷認可*11	
ドイツ	オブリッヒハイム*2	PWR	357	1972	78		島根2号機	BWR	820	装荷認可*11	
	ネッカー1号機*3	PWR	840	1982	32		女川3号機	BWR	825	装荷認可*11	
	ウンターベーザー*3	PWR	1,410	1984	200		泊3号機	PWR	912	装荷認可*11	
	グラーフェンラインフェルト*4	PWR	1.345	1985	164		大間*10	ABWR	1.383	装荷認可*11	
	フィリップスブルグ2号機	PWR	1,458	1989	228		NIII)				
	グローンデ	PWR	1,430	1988	140	※1:2003年,MC	DX利用終了	※7 :	2003年3月2	9日,閉鎖(CD)	
	ブロックドルフ	PWR	1,430	1988	272	※2:2005年5月	11日,閉鎖(CD)	₩8:	2012年4月1	9日,廃止	
	グンドレミンゲンC号機	BWR	1.344	1995	376	※3:2011年8月	7日.閉鎖(CD)	*9 :	2016年.4体の	の燃料集合体が装荷	され、臨界達成後係
	グンドレミンゲンB号機	BWR	1.344	1996	532	※4:2017年12	月31日 閉鎖(CD)		その後2017	手に営業運転開始。	
	クントレミンケンB亏機 イザール2号機	PWR	1,344	1996	212	※5:2005年,4体の燃料集合体が装荷された。					
	イザール2号機 ネッカー2号機	PWR	1,475	1998	96	※5.2005年,41季の燃料来音争が表何された。 装荷年数は約4年。					
					144	※6:1980年,4体の燃料集合体が装荷された。		※11:日本については旧規制基準での装荷認可 (注)データはアンケート回答による判明分のみを掲載。			
	エムスラント	PWR	1,406	2004	144						

出田のNOV町田の田北

出典:世界の原子力発電開発の動向(2019年版)より作成

図 1:世界の MOX 利用の現状

(出所) 日本原子力文化財団 原子力・エネルギー図面集「世界の MOX 利用の現状」、2019年1月1日

原子力・エネルギー図面集

MOX 利用の中心地である欧州では、特に MOX 燃料の利用に関して安全上の問題も発生しておらず、原子燃料 としてごく普通に利用されている。

上に挙げたフランス、ドイツ、スイス、オランダという MOX 定常利用国のラインナップを見る限り、原子力発電利用その ものに対する政府の姿勢は、国によってまちまちである。フランスは原子力比率を低減させていく方針であるが、再処理 及び MOX 燃料利用の燃料サイクル政策は堅持している。またオランダは 1 基のみとなったボルセラに続く新規建設計 画がペンディングとなっているとはいえ、原子カオプションを維持している。一方、ドイツとスイスは原子炉の新規建設・リプ レースを行わず原子力発電から撤退する方針である。こうした脱原子力国でも、今ある原子力発電所での MOX 燃料 利用は以前と変わらず続いている。ドイツやスイスは我が国と同じく、英仏に委託して再処理を行っていた。今後原子力 発電所が閉鎖されていくことから、新規の再処理契約は禁止となり、既契約分の国外輸送もすでに終了しているが、 製造済みの MOX 燃料については、残った原子炉で着実に利用していくというスタンスである。

1998 年に脱原子力政策が開始されたドイツでは、2019 年 11 月現在、運転中の発電炉が残り 7 基となってい るが、これら全てで MOX 燃料が使用されている。2017 年に脱原子力を盛り込んだ原子力法改正が発効したスイス では現在、運転中の5基のうち2基で MOX 燃料が使用されている。

このレポートは、電気事業連合会の委託により、株式会社三菱総合研究所が作成したものです。レポートの複写、配布 等の許諾につきましては電気事業連合会にお問合せください。

2020/1/9

図 1 に示す通り、我が国でも 5 基の軽水炉で利用実績がある。今後については、再処理で回収されるプルトニウムを確実に利用していくため、16~18 基の原子炉で順次、MOX 利用を実施する方針である。資源循環の輪は、リサイクルされたものをきちんと使うことで、初めて完成する。エネルギー安全保障の確保、資源の有効利用、廃棄物発生量の抑制を考える上で、MOX 利用は実証済みのオプションのひとつと言えるであろう。

参考文献

- 日本原子力文化財団 原子力・エネルギー図面集「世界の MOX 利用の現状」、2019 年 1 月 1 日現在 https://www.ene100.jp/zumen/7-5-6
- 電気事業連合会、電気事業者におけるプルトニウム利用計画等の状況について
- IAEA PRIS

以上

このレポートは、電気事業連合会の委託により、株式会社三菱総合研究所が作成したものです。レポートの複写、配布等の許諾につきましては電気事業連合会にお問合せください。